

約5年前にキャリアコンサルタントが国家資格になって以来、有資格者はずいぶん増えたように思われる。このため、キャリアコンサルタントの仕事内容や、具体的な活動の場について尋ねられる機会も増えてきたので、この場で私の仕事をいくつか紹介する。

ナビゲーター

一つ目が、合同企業説明会（就職フェアやガイダンス）会場での就職支援業務である。新規学卒予定者や離職支援者向けに、エントリーシートや応募書類の作成支援・助言などを行う。主に、自己PRや志望動機に関する相談である。

二つ目が、学校でのキャリア教育である。高校や大学、公共職業訓練施設などでのキャ

回 5

産業カウンセラーの現場から

相談者の思いに共感して伴走する

高まる社会からの期待

リア教育を担当し、幅広い就職支援業務に携わる。特に、年間を通じた授業を担当する場合、幅広い知識と経験に加えて、時代のニーズに応じてカリキュラムを変更していく柔軟な対応力が求められる。

三つ目が、セミナーや研修会の開催である。セミナーは、一般参加型のオープンセミナーもあれば、社員参加型のクローズドセミナーもある。コロナ禍では、オンライン形式のセミナーが急速に普及し、地域を問わず参加できる可能性が広がった印象を受けている。

四つ目が、キャリアコンサルティングの実

キャリアコンサルタントという仕事

施である。これは、一般求職者や学生の方に限らず、仕事をしている人や、企業経営者など幅広い方を対象としている。その相談内容は幅広く、職場の人間関係をはじめ、モチベーションに関するもの、将来の目標やそのための具体的方法（キャリアプラン）、転職に関するものなどがある。最近では、コロナ禍に関連した転職相談が多く寄せられるようになってきた。また4年ほど前から、病気を抱えながら仕事を継続しようとする方を対象に、「治療と仕事の両立支援」の一環としての相談業務も進めている。

これまで紹介した以外にも、たくさん活躍できるフィールドがあり、会社の中でも資格を生かそうとする動きも活発化している。そこでは、労働意欲の維持向上のための各種支援制度の充実、継続的なスキルアップを支援する教育支援制度の設計運用、定期的な見直しなど、人事・人材開発面において、やるべきことは多岐にわたる。

少子超高齢社会の進展に伴う労働力人口の減少傾向が進む中、企業の中でいかに人材を確保・育成していくのか、キャリアコンサルタントに期待される役割は今後ますます高まっていくものと思われる。

【日本産業力カウンセラー協会中部支部・日本キャリア開発協会会員 産業力カウンセラー キャリアコンサルタント 認定心理士 松本晃】
(火曜日掲載)

